

## 旅して学ぶヨーロッパ ～ AL・UDの視点を取り入れる～

山形県立米沢工業高等学校 定時制の課程 教諭 高橋 英路

### ① はじめに

ちょうどこの原稿を作成しているころ（2016年6月）、ヨーロッパが世界中から注目されるできごとがあった。イギリスの国民投票で、EUからの離脱派が残留派を上まわり勝利した。日本でもさまざまなメディアで大きく取り上げられ、為替レートや株式市場は大きな影響を受けた。こうした動きを受け、今後のEUの方向性がどのように変容するのか、注視していかなければならない。

このように、ヨーロッパが世界に与える影響は大きく、日本においても、私たちの生活のさまざまな場面に浸透している。本稿では、旅を切り口にヨーロッパの地域性を学び、その学びをきっかけとして「問い」に対して主体的に思考し、自らの考えを発信できるような実践を報告する。

#### 【授業の切り口・視点】

##### 旅をテーマに **Travel**

旅をしながら学ぶという感覚を大切に、教科書や帝国書院ウェブサイト掲載の写真データを多用。

##### アクティブラーニング **AL**

生徒の能動的な学習場面を設定。

##### ユニバーサルデザイン **UD**

プリントや指示で生徒の理解を助けるくふう。

### ② 生徒観

本校は山形県米沢市に位置し、全日制と定時制が併置されている。定時制の課程は単位制で産業科1クラスが設置され、工業や商業に関する専門科目を学習する。全校生徒45名程度の小規模な学校で、本実践を行ったクラスも1年次15名のアットホームな雰囲気だ。すでに就労している生徒も多いことから、社会に出て役だつ力をつけることを意識している。

### ③ つけたい力と評価

本実践では、とくに次の図のような力をつけたいと考

#### 《授業を通してつきたい力》



えている。**知識**はあくまでその後の学びや思考のきっかけとなる基礎・基本的なものにとどめ、網羅的にならないよう留意している。

また、思考や表現の**スキル**については、社会に出ていく生徒たちにとって必要不可欠であることから、「p4c」という手法を取り入れ、その習得を意識した時間を授業のなかで意図的に設定している。評価については、対話のなかで自らの考えを表明することができれば標準的な段階とし、他者の考えに対してコメントがあればすぐれている段階とした。このような評価を蓄積し、観点別評価の「思考・判断・表現」の資料としている。もっと細かなループリック（学習の達成状況を段階的に示した基準）を作成し提示することも検討しているが、ループリックを意識するあまり、自由な対話がやりにくくなるのではという思いから躊躇している。

**態度**については、その評価は時間ごとの形成的評価とし、非受容的な態度がみられた際にそのつどフィードバックして指導することとしている。



コミュニティボール

#### p4c

#### AL

「philosophy for children = 子どものための哲学」のこと。「正解のない問い」に対して考え、みなで輪になってコミュニティボールを回しながら対話し思考を深めていく教育手法。本実践では、問いが地理と現代の社会を結びつけられるような内容となるよう意識している。

## 4 単元構成

ヨーロッパを旅しよう

Travel

### 1 時間目 景色を楽しもう

イメージ, 自然環境

話し合い AL

### 2 時間目 雰囲気を感じよう

ヨーロッパの民族

p4c AL

### 3 時間目 モノを見てみよう

ヨーロッパの産業 (農業, 工業)

### 4 時間目 周遊してみよう

ヨーロッパ連合 (EU)

p4c AL

上記のように、ヨーロッパ全体で4時間を配当し指導したい。テーマである「旅」を意識し、現地に着くまでに景色を堪能し(1時間目)、到着後は言葉や建物内部の雰囲気の違いを感じ取り(2時間目)、食事やショッピングでモノに触れ(3時間目)、隣国などへ足を伸ばす(4時間目)という流れで構成した。なお、1、2、4時間目では、授業を「知識習得セッション」と「スキルセッション」に分け、スキルセッションの中でp4cなどによる対話や話し合いを行う時間を確保した。

## 5 授業実践

### (1) 1時間目「景色を楽しもう」

「さて、今日はどこに行ってきたでしょう？」授業の冒頭、国旗のタグですぐにイタリア製とわかるバッグを持って教室に入った。「イタリアでしょ？」すぐに答えが返ってきた。ちなみに一緒に持っていったネクタイは

「ITALY」のロゴがあるが「Made in China」である。サッカーが好きな生徒もおり、生徒にとっては比較的なじみの



授業で見せたバッグなど

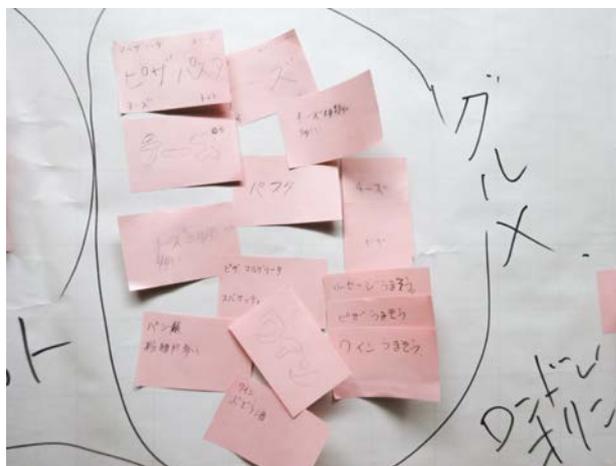
ある地域である。

地域を学習する際、最初の時間にその地域のイメージを発表させている。『高校生の地理A』(以下、教科書)

のヨーロッパのページ(p.90~p.99)の写真と、帝国書院のウェブサイトに掲載されている写真を大型テレビに映し、写真から思いつくイメージをできるだけたくさんあげさせた。



画像をテレビ画面で表示



付せんに書いたイメージを出し合った(グルメにはピザ、ワイン、パスタ、チーズなどがあがっている)

思いついたものは付せんに書かせ、黒板の前に出てきて発表させながら、全員のイメージをまとめていった。今回の授業では自然環境や食文化に関するものが多かった。本実践は1年次の7月に行ったもので、まとめは授業者が行ったが、今後は少しずつ生徒自らが話し合いをまとめられるよう指導していきたい。

こうした生徒の気づきから、「きれいな山が多いという人が多かったが、そうした山々の地形はどのようにしてできたのだろうか？」と、後半の自然環境に関する学習につなげた。

### (2) 2時間目「雰囲気を感じよう」

「Guten Morgen!」「Good morning!」2時間目は外国語であいさつをしながら教室に入ってみた。「どこの国のあいさつか知っている?」「Bonjour!」「Bom dia!」「これは?」答えを言うと、勘のよい生徒のなかには、ゲルマン系の2言語とラテン系の2言語の類似性に気づく者もいた。2時間目は、ヨーロッパの地域による雰囲気の違いを感じさせたい。



世界のあいさつ『標準高等地図』 p.121

まずは教科書の写真 (p.92①) を見せ、キリスト教が現地の生活に根ざしていることを理解させる。教科書の「現地レポート」は現地のようなイメージしやすいため、ぜひ活用したい。また、教科書p.92～93の写真③、⑥、⑦から教会の雰囲気の違いを読み取らせ、三つの宗派の違いや言語分布との関連を理解させたい。

Travel

現地レポート

クリスマスイブの夜、ヨーロッパの街なみはイルミネーションの幻想的な光にまつまれる。クリスマスはキリスト教の重要な行事であり、この日からしばらくの間はクリスマス休暇となる。訪れた街の中心部にある教会では、ミサが行われていた。ミサが終わると、教会に集まった子どもたちが街の家々を訪ねてクリスマスキャロルを歌い、歌声が街中にひびきわたる。翌日のクリスマスになると、人々は家で家族と一緒に食事をして過ごし、商店も休みとなるため、街はとても静かになった。

現地レポート『高校生の地理A』 p.92

2時間目の授業後半は、スキルセッションとしてp4cという手法を取り入れた対話を行った。前時に地中海性気候の学習の際にバカンス制度に触れたことをふまえ、「社会人の休暇は好きなだけ取ってよいか？特別な事情があるときだけにすべきか？」をテーマとした。テーマ設定は授業者が行ったが、こちらも今後生徒が考えたテーマでの話し合いをめざしたい。

今回の対話では、自分の就労先での現状やそれに対する自分の考えを話すなど、働きながら学ぶ本校ならではの内容となった。

### 《対話で出された内容の一部》

AL

- 労働者が好きなだけ休みを取ることで企業活動全体が停滞し、企業利益が減る可能性がある。そのことが最終的には労働者にはねかえってくるので、好きなだけ取るのは反対。
- 休みを取らずに働くことで逆にミスが頻発しよい結果は出ない。他者への負担はおたがいさまなので、気がねなく休める職場環境が理想だと思う。

など



p4cのようす

### (3) 3時間目「モノを見てみよう」

「ヨーロッパでつくられているモノといえば？」「F1!」「パン」「バッグ」「ワイン」…1時間目にイメージを確認しているので、次々と答えが返ってきた。3時間目は農業・工業を扱っていく。本時は知識習得セッションが中心ではあるが、少人数であることから、授業者と生徒が対話しながら進めている。

農業については、教科書の写真 (p.94①～⑤) を活用し、各国の料理や特産品から地域性を考察したい。「なぜ地域によって違うのだろうか？」指導に際しては、自然条件からの考察が中心となるが、教科書p.95の側注にある園芸農業のように社会条件との関連も指摘しておきたい。

工業についてはF1に関心のある生徒がいたことから、市街地を走るモナコグランプリの臨場感と現地の盛り上がりやを伝えた。また、教科書の写真 (p.97⑥) のブランド品のバッグに関連し、ヨーロッパ各地で開催される見本市のようすなども解説し、観光旅行で楽しめる工業という視点から授業を行った。次時はEUについて扱うことから、教科書 (p.96③) のF1マシンやエアバスの航空機の部品がヨーロッパ各地で生産され、それを組み立てているという事例をふまえ、「関税はどうなっているのだろうか？」という質問をなげかけて本時の授業を閉じた。

Travel

ヨーロッパのホテル料金  
(ツイン1人あたり) の例 (同じランクのホテルで比較)

都市名	通常料金 (円)	見本市期間 追加料金 (円)
ウィーン	6,500	6,900
ベルリン	7,400	10,800
ローマ	6,400	3,200
フランクフルト	5,600	17,100

※地球の歩き方「旅プラザ」ホームページより作成 (最終閲覧日9月9日)。



### ヨーロッパの自然環境はどのようにになっているだろうか

☆ 今日の学習内容 ☆

- (1) ヨーロッパの地形環境を学習する (10分)
- (2) ヨーロッパの気候環境を学習する (10分)

考える

#### (1) ヨーロッパの地形環境を学習する

① 教科書 p90 上の写真のような美しい地形はどのようにしてできた?

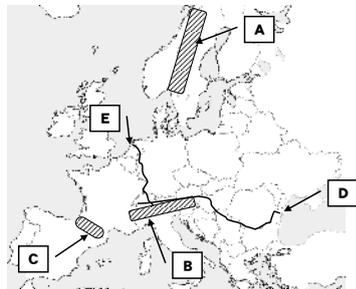
② ヨーロッパに見られる代表的な地形の名称を覚えよう!

聞く



- 山頂部分がすどくどくがった山 ( )
- スプーンでえぐったような、くぼ地 ( )
- 総長く入り組んだ入り江 ( )

- A ( ) 山脈  
・・・鉄鉱石の産出もある山脈。
- B ( ) 山脈  
・・・ハイジの舞台となった場所。牛やヤギが飼われている。
- C ( ) 山脈  
・・・スペインとフランスの国境になっている山脈。
- D ( ) 川  
・・・東ヨーロッパを貫流。
- E ( ) 川  
・・・海上輸送に使われている。



授業プリント例 (写真提供: アマナイメーゼス, アフロ, JTBフォト, 時事通信フォト, ユニフォトプレス)

#### (4) 4時間目「周遊してみよう」

「昔は、ヨーロッパ旅行をすると、何も買い物してないのに、最初に持っていったお金がどんどん減っていった。これってなぜだろう?」と発問した。これは、かつてのヨーロッパにおける国家間の通貨の相違で、国境を越えるたびに両替手数料だけが引かれていくという皮肉な状況を示している。なかなかの射た解答をする生徒はいなかったが、理由を説明すると納得していたようだ。

ヨーロッパに旅行する場合、数か国を周遊するプランも多い。そこを切り口に、EUの成立により、周遊(または周辺国と貿易)した場合、過去と比べてどのような違いがあるのか、考えさせたい。また、イギリスのEU離脱に関する国民投票が話題に上った時期でもあったので、そこに関連してEUの抱える課題についても考えさせたい。

本時の後半はスキルセッションで、「イギリスのEU離脱、賛成? 反対?」を扱ってみた。p4cを始めた当初は「対話」というよりそれぞれが意見を出すだけだったが、回を重ねるごとにおたがいに気軽に話せる雰囲気になった。

\* 参考資料 p4cの実践 リクルート『キャリアガイダンス』vol.414 (2016年10月発行)「社会につながる11の授業」地理・歴史  
[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/2016/10/2016\\_cg414\\_11.pdf](http://souken.shingakunet.com/career_g/2016/10/2016_cg414_11.pdf)



#### (3) ヨーロッパの気候環境を学習する

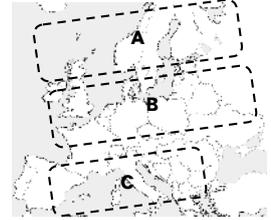
① ヨーロッパの気候を3つ分ける!

A地域



日本の北海道と同じで、寒い! また、降水(雨、雪)も年間通して見られる。

気候 (記号 )



B地域



日本のように年間通して降水があるが、気温はやや低め。夏は快風。

気候 (記号 )

C地域



過ごしやすい気候。夏に雨が降らないので、高い木は少ない。

気候 (記号 )

ココにはリゾート地がイッパイ!

なんと! フランスには、夏季に( )週間連続で休みをもらえる( )制度)があり、長期休みのときには、下のような暖かいところに遊びに行きます。右の写真は最も有名な( )海岸)



#### 《プリントの工夫》

UD

生徒の理解を助けるため、授業で使用するプリントは以下のような様式に統一している。

- ① プリント冒頭に学習内容と時間配分を明示し、見通しをもって授業に臨めるようにした。
- ② 長い指示は分割し、段階を追って学習が進められるようにした。
- ③ 学習活動(考える、聞く、書くなど)をイラストを交えて示し、今何をすべきかがわかりやすいようにした。
- ④ 対話の時間のプリントにもメモスペースを設け、話すことが苦手な生徒でも、自らの考えを記述することで評価できるようにした。

#### 6 おわりに

旅をしている感覚を大切にしながら授業を進めてきた。実際に行ったことのある生徒はいなかったが、ヨーロッパに限らず旅に対する興味は高く、好意的な感想も多かった。また、p4cを取り入れた対話の時間でも、話すことが苦手と言っていた生徒が少しずつ自分の言葉で話すようになるなど、成長がみられた。今後もこうした実践を積み重ねながら、授業改善を図って行きたい。